



### 【こんなものも作ってみたい!】

動物園に行った後、教師が「キリンさんの首ってこんなくらい長かったっけ?」と空き箱を見せて作ろうとすると、Aちゃんが「私が作る!」と空き箱に黄色の紙を巻いて作り始めました。教師が「キリンさんの模様ってどんなの?」と聞くと、「黒いのがあるよ」と黒で模様を描いていました。動物の柵を作り、動物園ができるようにすると、周りにいた子どもたちが寄ってきて、次々に「ゾウもいるよ」「あと、ペンギンも」と作りたいものが出てきて、思い思いに動物を作ることを楽しんでいました。教師が「ペンギンさんどこにいるの?」と聞くと、Bちゃんは「氷だよ」と言って氷を作ったり、Cちゃんは「ゾウは草を食べるんだよ。水も飲むよ」と草や水を作ったり、Dちゃんは「キリンさんは木の草を食べるんだよ。木作らなきゃ!」と動物に必要なものを作ろうとしていました。子どもたちが動物の近くにえさを置いていたので、「いいなあ。先生もえさあげてみたいなあ」とつぶやくと、「いいよ。何がいいですか?」「わたし、飼育員さんになる!」と友達を誘ってえさやり体験が始まりました。Bちゃんは、自分の作ったレッサーパンダを教師に渡して「触っていいですよ。寝てるからそっとね」と触れ合い体験もさせてくれました。

ごっこ遊びの中で、「こういうふうにしたい」「～ってこと」と、イメージや思いを自分なりの言葉で話したり、紙や空き箱などのいろいろな素材を使って形にしたりすることが楽しくなってきました。また、自分のイメージだけではなく、友達のしていることや先生の様子から、自分のイメージの世界につかって遊ぶ子、友達のしていることを何となく分かって動く子など、姿は様々ですが、先生の言葉から周りの友達のしていることを感じたり、「こうやってやろうよ」「～ってことにしよう」と、友達に自分の思いが伝わるうれしさを感じたりできるよう、今後も支えていきたいと思えます。

### 【外で遊ぶの楽しいね】

運動会後のある日、登園時に園庭にリレーのトラックを描いておきました。すぐにトラックだと分かった子どもたちは、「リレーしたい!」「丸いのもいるよ」と、年長児と一緒にリレーをしようと言いにきました。バトンやコーンを借り、リレーが始まりました。年中組のリレーは勝ち負けがなく、友達にバトンを渡すことを楽しむ子、友達からもらうことがうれしい子、友達や教師と手をつないで一緒に走る子、年長児のようにトラックを思いきり走ることを楽しむ子などなど・・・それぞれの楽しみ方をしていました。また中道公園でのリレーに誘ってもらい「ここを走るんだよ」と年長児に教えてもらったり、「頑張れー!」と応援してもらったりして、ドキドキしながらも走ることを楽しみました。走り終わった子どもたちは、「楽しかった!またやろうね」と言い、大きい組になったような誇らしい表情をしていました。

リレーで走る心地よさを感じた子どもたちは、鬼ごっこも始めました。今楽しんでいる鬼ごっこは『増やし鬼』です。タッチされると鬼になり、鬼がどんどん増えていきます。バリアに鬼は入ってはいけません。ルールを理解はしているものの、タッチされたことが悲しくて鬼に変わろうとしない子、思わずバリアに入る子などの姿があります。「タッチしたよ!」「バリアに入ってた!」と言いつつこともあります。そんなときは「Aちゃんが鬼チームに来てくれたから、鬼チームが強くなりそう!」「Bちゃんなら、タッチしたって分かるくらい次は速く走れるんじゃない?」と気持ちを切り替えられるような言葉を掛けています。そんな教師の言葉を聞いて、「もっと速く走れるよ!」とすぐに走り出しています。

また、うんていでどこまでいけるか、下からジャンプしてどこまでタッチできるかなどを繰り返したり、長縄で何回跳べるか数えることや、『大波小波』『郵便屋さん』の歌に合わせて跳んだりすることも楽しみ始めています。寒くなる前に、戸外で思い切り体を動かすことを楽しんでいきたいと思えます。